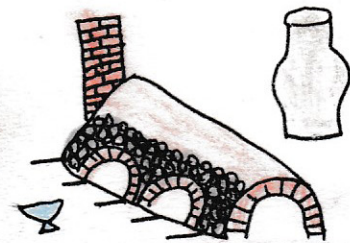


やきものの歴史



ぼくの父は、やきもので有名な佐賀県出身です。
特に、有田焼や伊万里焼が有名です。
家に本居他のやきものも見てみると、デザインや
素材の違いがあったので調べてみました。
すると、産地や粘土の違いがわかり、歴史も様々
だということが分かりました。

有田焼の輸出が盛んになったのは、歴史に関係が
あることから、歴史と組み合わせてまとめてみる
ことにしました。

日本のやきものMAP



伊万里・有田焼



備前焼



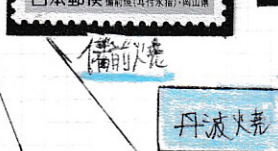
九谷焼



大塚相馬火焼



薩摩焼



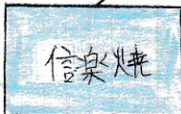
越前焼



益子焼



石部火焼



信楽焼



常滑焼



瀬戸焼

旧石器時代・縄文時代・弥生時代のやきもの

日本のやきものは縄文土器からはじまります。最も古いものは青森県大平山元で見つけられた土器で1万6500年前のものと言われています。

旧石器時代って どんな時代?

約200万年前～1万5000年前くらい

打製石器の使用が始まった時代で、石器の出現から農耕が始まるまでの時代です。

狩りには黒曜石で作られたやじりが使われていました。このやじりは群馬県の岩宿遺跡で見つかったものです。



やじり

縄文時代って どんな時代?

約1万5000年前～3000年前くらい

たて穴式住屋に住み、シカやイノシシを狩ったり川や海で漁をし、粟などを栽培して、収穫したものは公平に分け合って平和に暮らしていました。



大木式土器

この時期に使われていた土器に縄目の模様が付けていたので縄文時代と呼ばれています。食べ物を煮る、貯める、祭などに使っていました。岩石が材料で、暗い褐色、肉厚、口は広く深いです。



【縄文人の特ちょう】

弥生時代って どんな時代?

約2300年前～西暦300年くらい

平地に定住し、大きな集落をつくり、米作りが始められました。米を土器に入れ、高床式倉庫にしまっていました。縄文土器の特徴と違った土器が東京都文京区弥生で発見されたので弥生時代と言います。明るい褐色、肉薄になり左右対称です。粘土に砂を



佐賀県・吉野ヶ原遺跡

混ぜて強度を増し、わらや土をかぶせて焼く「覆い焼き」をしていました。食物を盛る器や高坏（たかつき）として使用されていました。



【弥生人の特ちょう】

古墳時代・飛鳥時代のやきもの

朝鮮半島からやきものの技術が伝わり、「須恵器（すえき）」というやきものがつくられました。それまでは、弥生式土器の技術をもとにしてつくられていた「土師器（はじき）」と呼ばれるやきものが主流でした。

【土師器】

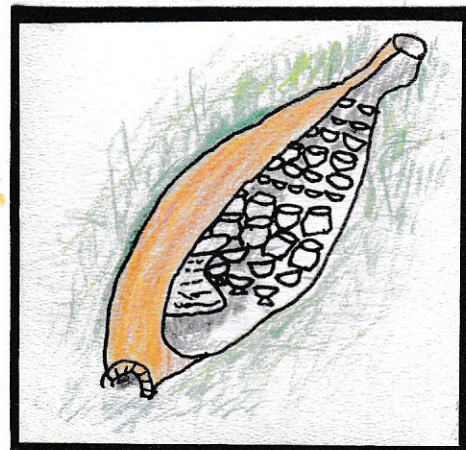
の火焼きかた



地面に浅い穴を掘ってわらや土をかぶせて低温（700～800度）で焼いていました。弥生土器よりもさらに薄型で煮炊きだけでなく、食器として使われていました。

【須恵器】

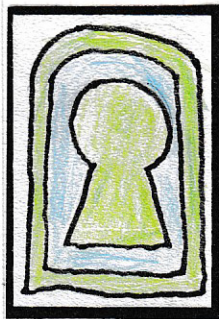
の火焼きかた



「穴窯」という山の斜面を利用した焼き方で高温（1200～1300度）で焼きます。青灰色で硬いのが特徴です。

古墳時代って どんな時代？

3世紀～7世紀ごろ



前方後円墳

おおきみ（後の天皇）や豪族の大きな墓、「古墳」がつくられた時代です。日本全国に16万基以上あります。古墳の周りにはたくさんのおきもの、はにわが置かれ、くずれ止めや飾りに使われ、人の他にも、窓や馬、船など、色々な形がありました。



はにわ
武装男子立像

飛鳥時代って どんな時代？

592年～710年

飛鳥地方（奈良盆地南部）を中心に栄えていた時代です。

土師器や須恵器に加え、瓦や、粘土で造られた仏像、施釉陶器など、新たなやきものが作られました。暗文（あんもん）を施した土師器の器は、光沢をもつ金属製の器をまねていたと考えられています。暗文とは、土師器の表面や内面を、道具を使ってピカピカ磨いた時にできる文様のことです。さらに、施釉陶器に用いる釉薬は、ガラスと同じ原料の石英を溶かして作られていました。

奈良時代・平安時代のやきもの

奈良時代って どんな時代？

710年～794年



唐三彩壺耳瓶
(唐の時代)

奈良に、唐(中国)の都、長安をまねた平城京がつけられました。日本で最初の仏教文化が栄えた時代です。中国、朝鮮、ギリシャ、ペルシャインドなどの影響で国際性豊かな文化が栄えました。カラフルな色の「釉薬」を使う中国のやきものの技術(唐三彩)が伝わり、奈良三彩(黄色・緑色・白色)のやきものがつくられ、主に仏具に使われました。



三彩梅花文壺
(唐の時代)

平安時代って どんな時代？

794年～1192年

政治に口を出す仏教関係の寺院や僧侶奈良に残したまま都を移すことで、仏教勢力との関係を断ち律令政治を立て直そうと、天皇が京都の平安京に都を移しました。当時は中国に使いを出すことを止めていて、日本独自の文化が発展しました。ひらがなやカタカナが作りだされ、女流文学者が現れました。



装束部と代表作の源氏物語



清少納言
女性の正装は十二単



男性の正装は束帯

このころのやきものは、土師器も使われていましたが、徳恵器は、つぼやかめ、鉢の容器類が中心でした。奈良三彩は姿を消し、緑一色の「緑釉陶器」になりました。緑白色の釉薬をかけた「灰釉陶器」もつくられるようになりました。この灰釉陶器の技術が日本のやきものの元になっていきました。

平安時代から今も続くやきものの産地

備前焼

岡山県備前市・瀬戸内市



須恵器技術を継承し現在まで、1000年以上「無釉焼締」のスタイルを続けています。使われている土は田んぼの表面の土を取り除き底の土を掘りおこした「ひよせ」と言われる田土を使います。わらをまいて焼くと赤褐色の「火だすき」が出るのが特徴です。

↑【備前の土】

丹波焼

兵庫県丹波篠山市今田町

現在も穴窯による焼締でやきものがつくられています。安土桃山時代の茶の湯文化から江戸時代には自然釉の奥深さが重宝され、茶会で重宝されていました。軸木をけって回す独特の左回りの「けりろくろ」でつくられています

越前焼

福井県 丹生郡周辺

穴窯のまきの灰が降りかかる「自然釉」を生かした素朴さが特徴です。ろくろを使わず粘土のひもを積み上げて板状の「はがたな」で伸ばして整える「ねじたて技法」という伝統的技法でつくられています。

常滑焼

愛知県常滑市周辺



平安時代後期からつぼや釜がつくられ、知多半島には穴窯が2・3000基あったと言われています。鎌倉時代には大きな器が生産され、高さも50cmを超えるものもありました。釜は、後の室町時代に常滑に集まり、大型のつぼやかめがほとんどを占めていました。



今は朱泥母の急須などが有名です。トイレや洗面台などの衛生陶器やタイルもたくさんつくられています。

↑【常滑の土】

やきものにまつわる観光スポットがたくさんあると母に教えてもらったので 家族で観光に行ってきました。

常滑焼の「やきもの散歩道」

常滑の「やきもの散歩道」には、今も煙突・窯・工場などが残っていて、歴史的な場所をめぐる観光スポットです。



のぼり窯の煙突のある風景を見ながら、常滑焼のお店をのぞいたり、飲み物が常滑焼の器で出てくるカフェに行ったりしました

常滑のやきもの



NIPPON

82



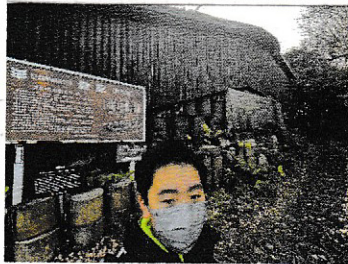
やきもの散歩道、煙突のある風景



腐材になった土管が積みまれています。土が崩れるのを防ぐためです。



足元にも敷かれています。坂道で歩きやすくするためです。



登窯も残っていました



INAの刻印は現LIXILの「伊奈製陶」がつくった印



コールタール塗りの黒い板壁の建物が多いのが特徴



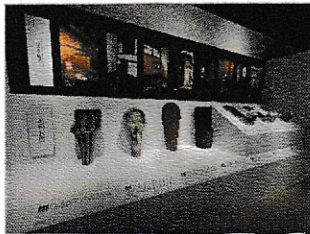
散歩道の先にある【INAXライブミュージアム】に行き、色々なやきもの歴史を体感してきました



世界中のタイルが展示されていました



↑タイルの絵付け体験をしました。難しかったです。



トイレの歴史が分かる展示が珍しかったです



日本中の土が集められていてすごかったです



帝國ホテルのレンガ

鎌倉時代のやきもの

鎌倉時代ってどんな時代？

1192年～1333年

神奈川県鎌倉市を政治の中心として幕府が開かれ、武士が中心になって政治を動かす時代でした。源頼朝は、御家人が持っている領地の支配を認めたり、手柄をたてた者には新しい領地を与えたりしました。武士の法律や制度が整えられました。



京都では、唐物と呼ばれる中国の陶器（景徳鎮産のやきもの）が高級とされ、写しが焼かれるようになりました。景徳鎮は世界的にも有名で、中国を代表する陶磁器の名産です。

今でも中国陶磁業界で第一位です。

【景徳鎮のやきもの】

宋の時代

元の時代

このころ発展し始めたやきもの産地は、瀬戸と信楽です

瀬戸焼

愛知県瀬戸市周辺



鎌倉時代初期に開窯し、当時、中国陶磁器をまねて「釉薬」をかける制作していたのは瀬戸だけでした。

そのため唯一無二の高級品とされて、武士や富裕層、寺社などに多く求められました。鎌倉周辺で出土されることが多く、特に鎌倉幕府の武士に人気だったと言われています。東日本ではやきもの総称として「せともの」と使われるほど流通しました。

信楽焼

滋賀県甲賀郡周辺



鎌倉時代半ばに開窯し、後の室町時代に広まった「茶

の湯」で、茶人がこぞって使ったので信楽焼の格が一気に上がりました。

たぬきの置物も有名です。

信楽でとれる粘土は、日本の陶土の標準と言われています。つくりやすくてこわれにくいと言われ、釉薬の発色も良い万能粘土と言われています。

室町時代のやきもの

室町時代って どんな時代？

1398年～1573年

貴族と武家の文化が混ざった、簡素で深みのある文化が起きました。
 戦国大名が城を中心に城下町を作り、明（中国）と貿易する商人が大阪の堺や
 福岡の博多などの港に多く集まり、港町が発達しました。



二条城
この丸書院

現代の和風建築の元となった「書院造」が広まり、
 書院造の部屋には書画・生け花などが飾れ、
 様々なやきものが使われていました。



本願寺白書院

奈良時代ごろに日本に茶が伝わりましたが、飲む習慣が出来たのは中国の僧
 「栄西」が伝えた12世紀末ごろからです。



それまでは、貴族などの上流階級の一部限られた人だけが時々口に
 できる茶でした。栄西は、禅の精神を取り入れ、豪華な道具を使い、
 芸術品を鑑賞しながら茶を飲むという「書院の茶」と呼ばれる。
 ぜいたくな茶会を広めました。

↑ 1191年に、栄西が、留学先の宋から持ち帰った茶のたねを植えました。
 この切手には、茶の花と栄西のいた東山建仁寺の茶器が描かれています。

美濃焼

岐阜県美濃地方

美濃では7世紀ごろから須恵器が作られていて、15世紀以降
 は半地上式の大窯で生産が始まりました。織田信長の美濃進出に



わが家のおちよこ

伴って瀬戸から陶工が移され、生産の中心と
 なっていきました。朝鮮半島のやきものの
 写しではなく、日本人の感性が吹き込まれた
 産地で、人間国宝がたくさんいます。



上：瀬戸焼
下：美濃焼

安土・桃山時代・江戸時代のやきもの

安土桃山時代って どんな時代？

1573年～1603年



織田信長と豊臣秀吉

織田信長や豊臣秀吉が活やくし、ヨーロッパから入ってきた「南蛮文化」が広まりました。雄大な天守をもつ城がいくつもつくられました。信長は茶の湯にはまりたくさ人のやきものを集め、靴のほうびに土地ではなく茶器をあげていました。



曜変天目
(宋の時代)

この曜変天目茶碗は、日本にある3点しか現存しないと言われ、国宝に指定されています。

この切手の曜変天目は、徳川家光から春日局、さらに淀藩主稻葉家の手へと渡ったとされるものです。

織田信長も曜変天目を所有していたと言われていて、足利義政から織田信長へ渡し、本能寺の変で他のやきものと共に焼失してしまいました。

室町時代の後期からは日本独自の文化を重んじる美意識が生まれ、千利休の登場で「わびさび」を感じさせるやきものが人気になりました。

朝鮮出兵 (やきもの戦争)

1592年～1598年

豊臣秀吉が、衰退した明を支配しようと朝鮮出兵しました。明と和解して引き上げる際に、朝鮮から多くの陶工を連れ帰ったため「やきもの戦争」とも言われています。その時の陶工たちのおかげで、西日本の陶磁器生産が大きく発展しました。

江戸時代って どんな時代？

1603年～1868年

戦乱がなくなり、日本らしい文化が発展し、平和な時代が続きました。徳川家光は、1639年にポルトガル船の来航を禁止し、キリスト教を布教しないオランダと中国だけに貿易を許す鎖国体制を建てました。長崎の平戸にあったオランダ商館は出島に移され、幕府の監視のもと貿易が行われました。

やきものの文化や歴史にとっては、この鎖国が重要な分岐点です。



長崎島の出島

有田焼

伊万里港から出荷されていたので古伊万里焼ともいわれます

朝鮮出兵からの引き上げで、佐賀の鍋島藩が朝鮮の陶工集団を有田へ移住させました。そのひとり李参平は、白磁に適した土を探し回り、1616年、有田の泉山で白磁鉄を発見し、日本初の白磁器製造に成功しました。李参平は神社に祭られています。有田で色絵付けが始まったのは1640年代。それまで藍一色でしたが、赤絵ができ、赤・黄・青・紫などの5色を使った「五彩手」や、金彩を施した「金襴手」など、多色塗りができました。



色絵花盆文八角大壺 (1690~1730年代)



色絵丸島文大深鉢 (1680年代ごろ)

1647年、初代柿右衛門によって赤絵の焼き付けが成功。はじめは明の磁器を手本としていましたが、17世紀後半に乳白色に大和絵文様を描いた「柿右衛門様式」をつくり出しました。ヨーロッパに輸出された柿右衛門は、貴族たちに重宝されました。



鍋島藩色絵桃花文皿 (17世紀末~18世紀初期)

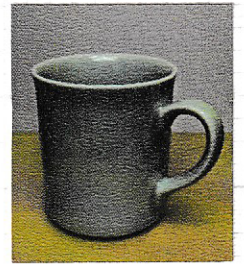
【鍋島窯】

一鍋島藩直営の特別な窯元-

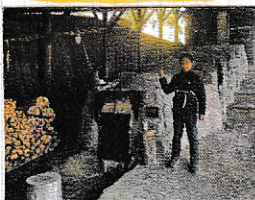


鍋島藩窯関所跡

有田近くの黒髪山地の大川内山地区では、鍋島藩直営の窯がつくられました。藩主所有品や将軍・大名への贈答品など最高級品をつくっていました。技術のろうえいを防ぐため、山と関所で封さされていました。



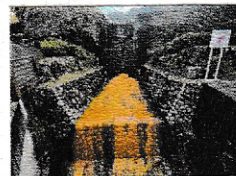
父の鍋島焼のマグカップ



登り窯



橋に立派なつぼ



川のオレンジ色は鉄分 (焼くと青くなる)



左から有田泉山鉄石 天草陶石 青磁原石



大川内山に窯が置かれたのは、青磁鉄石が採取できたからとも言われています。酸素を極限まで減らして焼く(還元焼成)と、釉薬に含まれる鉄分が化学反応を起こし青色に変化します。

ヨーロッパでのやきものの地位

大陸を渡ってはるか遠くから運ばれてくる白いやきものは「白い金」と言われてもてはやされ、王侯貴族や富裕層のステイタスでした。



明時代の景徳鎮焼

オランダ東インド会社 (VOC)



ティーセット

世界初の株式会社 VOC「オランダ東インド会社」 は、1650年代の終りごろ、喜望峯を植民地とし海路を支配し、ヨーロッパ貿易を独占していました。ヨーロッパでは、白磁で中国のお茶とインドの砂糖を入れて飲む「紅茶」が流行りました。



VOCのマーク



やきものの間がめるツヴィンガー宮殿

1644年に明が滅亡し、王朝が交代したことで景徳鎮の生産量が大幅に減りました。代わりに有田焼が注目され、大量に発注されるようになりました。貴族のための高級品なので、要求水準が高く、有田焼の技術は大きく発展しました。



染付芙蓉手 VOC文字皿
有田で焼かれ輸出された大皿

ヨーロッパで白い磁器がつかれなかったのはなぜ?

白磁の原材料は、景徳鎮は「カオリン」、有田泉山は「セリサイト」+「カオリン」による白い粘土でした。セリサイトは化粧品のファンデーションです。ヨーロッパではカオリンがずっと見つからず、白磁は高級な輸入品のままでした。

【ヘレンドの食器】オランダ



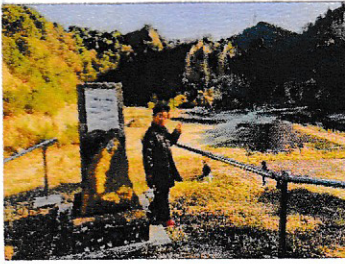
白磁になんとか近づけようと、灰泥土で成形したやきものにスズ釉薬を使って不透明で真っ白な表面づくり、その上に絵付していました。

【ボーンチャイナ】イギリス



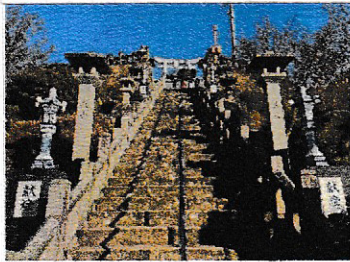
カオリンの代わりに牛の骨灰を陶土に混ぜた磁器です。骨灰 (bone ash) と中国やきもの (China) が名前の由来です。

有田のフィールドワーク

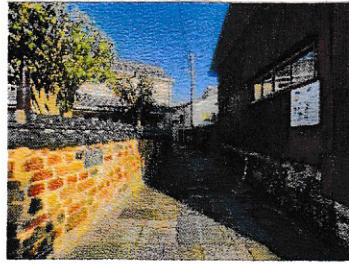


泉山磁石場

李参平が佐賀で探し回って見つけた泉山磁石場に行きました。流紋岩質の黒髪山地で、熱水で鉄分が抜けた白磁に適した石が採れます。400年採石され、山が一つなくなりました。今では国指定の史跡になっています。今の有田焼には、熊本の天草陶石が使われています。



陶山神社
烏居や狛犬、お守り
など全て磁器でした



トンバイ堀
窯の庵材で
耐火煉瓦です



2500客の中から自分でカップを選ぶレストランへ行きました。ぼくは派手な器を選びました。



街道沿いのカフェは現代的な有田焼でした。庭は物原がデザインされています。物原は、失敗したやきものの捨て場です。



地質図を見ると険しい山地で温泉と磁石場が近く、川に沿って伊万里港に有田焼を選び出したことがわかります



有名な有田の香蘭社と深川製磁の工場です。2社は親戚だそうです。父から食器を裏返すとブランドを示すマークが入っていると教えてもらいました。

まとめ

やきものは、土の成分、焼く温度、釉薬で、全く違う器になることがわかりました。ぼくは鉱物が好きなので、その地域独自の鉱物の特徴が活かされていて、とても面白かったです。

やきものと歴史の関係を調べてみて、鉱物・地学・化学・文化・美術もつながっていたのにもびっくりしました。切手を買いに行った時に一緒に探してくれたお店の方たち皆さんが歴史にも詳しくかつ理由がよくわかり勉強になりました。

今回の自由研究の色ぬりには色々の産地の土でできたパステルを使用しました。たとえば備前焼の土には備前の土をぬりました。



土のパステル

参考文献

- ・小川雄一 やきものの教科書 誠文堂新光社 2020年
- ・日本陶磁器卸商業協同組合連合会 やきものハンドブック 2020年
- ・土屋徹 ?に答える!小学社会 株式会社Gakken 2023年 増補新装版
- ・青葉図書 社会科資料集6年 青葉出版株式会社